

高山スーパースクールゾーン北小保護者説明会

- 1 開催日時 平成 25 年 1 月 22 日（火） 19:00～21:15
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 出席者 (事務局) 池田福祉健康部長、峯島教育総務部長、吉川こども課長
真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、平田学校給食センター所長、吉岡教育総務課課長補佐、吉村教育指導課課長補佐、山口学校給食センター副所長
(生駒北小学校) 十文字校長

(校長、事務局)

【挨拶】

(事務局)

【出席者紹介】

(事務局)

【説明】

4 質疑・意見等

○小中一貫校の実施の是非

参加者：小中一貫校は、全国で何校か。

事務局：全国で約 1,200 校。H23 年度の文部科学省の調査では、そのうち 96%で「学力が向上した」「規範意識が向上した」等の成果が報告されている。

参加者：小中一貫教育の問題点は把握しているのか。

事務局：小中一貫教育は、それぞれの学校の課題解決のために行っている施策の一つ。その施策が学校の実態と合わなければ、成果が表れにくい。インターネット上には「不登校が一時的に増えた」等の問題点も出ているが、子どもたちの実態も違うので、一概には言えない。クリアすべき課題としては、小中で単位時間が違うことや先生方の打合せ時間の調整等があげられている。

参加者：富雄第三小中学校では、最初は選択制で富雄中へ行きたいという希望者が多かったと聞いている。また、注目され、与えられた課題への対応で、指導が手薄になっている気がするが、どのように考えるか。

事務局：富雄第三小中学校の校長からは、「プラス面は多くある。課題もあるが、大きくマ

イナスになったことはない」と聞いている。富雄中を選択されたのは、兄弟が通っている等、いろいろな理由があると思う。

参加者：富雄第三小中学校の学校側ではなく、保護者から直接話を聞いたことはあるのか。

事務局：いろんなご意見を伺ってよいものにしていきたい。

参加者：小中一貫校で少人数のところはどれくらいあるのか。

事務局：児童生徒の減少は小中一貫教育推進の大きな理由の一つ。県内では6市町村で取り組んでいる。奈良市は7つの中学校区で取り組んでいるが、2～3の学校では生駒北小、北中よりもっと数が少ない中で、より多くの友達と触れ合いながら、よさを高めていこうと小中一貫教育を行っている。五條市、御所市、明日香村、天川村、上北山村でも行われているが、ほとんどは生駒北小、北中よりも少人数である。

参加者：富雄第三小中学校についてはどうか。

事務局：富雄第三小中学校は、600人ぐらいの児童生徒数である。生駒北小中学校は、計画が実施される頃には、小中併せて9クラスとなる見込みである。富雄第三小中学校では、もともとあった小学校の中に中学校を新設した。背景には富雄中学校の生徒数の増加がある。

参加者：高山に生まれて、高2、中3、小4の子どもをもっている。ほとんどが顔見知りなので、高校で戸惑いがある子や不登校になる子もいる。小学校は仕方ないとしても上中と一緒にしていただけたらと思う。なぜ、北地区にスーパースクールゾーンなのか。他校で、いじめや不登校を抱えている学校があるのではないか。

事務局：大規模になり過ぎないこと、小中の校区が同じであることを考えると、他では難しい。

事務局：この地区はずっと住み続ける人がおられるし、子どもたちもこの地区ですくすく育って、また帰ってくる地域である。タウンミーティングでも上中との合併の意見があったが、高山という地域でゾーニングを考えた。

参加者：校区の再編は考えたのか。例えば鹿ノ台小、鹿ノ台中との統廃合。他の学校と比べてクラブの数が少なくて選択の幅がないことが課題。どのような点に力を入れていくのかというビジョンを示してほしい。また、統廃合も検討してほしい。

事務局：ビジョンは、こちらから一方的に示すのではなく、懇話会で意見をもらい考えて

いくようにして、学校で行うべきものは学校の先生に考えてもらうということをやっていきたい。今のままでいくよりいろいろなメリットを生かした学校を作れるのではないかと考えている。

学校の統廃合について、我々は高山地区に学校を残すという方向で検討したが、タウンミーティングで市長が言ったとおり、大多数が反対ならば我々の提案にこだわることはない。いろんな意見を聞いていきたい。

参加者：このような議論も高山に学校があるからである。高山に140年間学校が続いてきた。その歴史を踏まえ、市教委は学校を残す方向で考えている。地域としても残したいという気持ち強い。その中で考えていこうというのがベースではないか。若い人は上中との統合という考えもあるようだが、私は残していききたい。皆さんも慎重に考えてほしい。

参加者：決まったことでないのであれば、広報等ですでに決まったように報道しないほしい。9年間一緒に生活しても何ら変わらない中で活力ある学校ができるとは思えない。上中との合併も一つだと思う。北中にはいじめもないので、小中一貫教育でそれらを解消すると言っても意味はない。

参加者：活力ある学校は子どもの人数だけで決まるものではない。上中と統合してすべてが解決するわけではない。中学校でカルチャーショックを受けて困難に直面することも考えられる。子どものために何がよいのかを懇話会で話し合ってもらいたい。

事務局：校区は決まっているが、柔軟に対応している。

参加者：小中一貫か統廃合かという選択肢か。この学校のよさを残してやっていく方法を議論する機会はもうないのか。先生方は危惧していると思う。

事務局：これから懇話会等で意見をもらってよいものにしていきたい。隣接校選択制は小学校のみだが、事情によって指定校の変更もしている。

参加者：子ども3人がお世話になったが、この地域の子どもたちは、地域の中で素直に育っている。高校で不登校になるとよく聞いているし、保護者の不安も分かる。この話は決まったものだと思っていたが、白紙の可能性もあるのか。

事務局：反対意見が大多数であれば、変更もある。

参加者：どんなところで判断するのか。

事務局：今後、保護者との話し合いや懇話会等で詰めていったときに、反対が多数を占めるようならその時点で考えていきたい。

参加者：配置計画も懇話会で検討すると聞いていたが、それでは設計ができないのではないか。なぜ急ぐのか。懇話会で答えが出てからでもよいのではないか。

事務局：スケジュールは案なので、懇話会の意見次第ではもっと先になることもある。

参加者：今小学校4年生の子どもがいるが、9年間を一緒にしてその間は幸せだが、高校進学の時や就職のときに困難に直面するかもしれない。なぜ高山で小中一貫教育なのか、北小、北中は今のままで十分なので、このままでいいと思う。いじめや不登校解消など、他の地区で進めてもらった方がいいと思う。

参加者：パンフレット通りならば、何の問題もないし素晴らしいと思うが、親としてはいい教育が受けられるかどうかだけである。今、不安に思っているのは、現場の先生がタウンミーティングの時に反対意見を言っていたことである。現場の先生と市教委のコンセンサスはとれているのか。ばらばらの状態では親として安心して預けられない。失敗のないように、きっちりと準備をしてほしい。

参加者：9学年が同じ校舎で学ぶことで、中学生が小学生の面倒をみるということだが、高山ではすでにできている。それよりも学校が変わることによって子どもは成長すると思う。心の中の成長を考えてほしい。

○広報関係

参加者：教員配置のこととか説明にあったことは理解できるが、自分たちにとっては降って湧いたような話で不安がある。

参加者：懇話会を2月に立ちあげ、1～2年かけて検討すると言われたが、スケジュールでは設計が来年から入っているので、そんな状態で設計ができるのか。

事務局：パンフレットは現時点での予定で書かせてもらっているが、懇話会は1年程度かけたい。パンフレットのスケジュールは、懇話会等での意見を反映するために設計期間を長くとってある。

参加者：11月の地元説明会、12月のタウンミーティング、今日と説明の内容が変わっているのはおかしい。北小校区以外ではしないとおっしゃっていたが、他の校区でもすると話が変わっているのではないか。

事務局：教育長が施設一体型の小中一貫教育は生駒北地区がふさわしいと言ってきたことに変わりはない。別々の校舎の連携型ではなく、校舎、職員室が一緒であること

に意味がある。言ってきたことに変わりはない。

参加者：時間帯も変えて、もっと保護者説明会をしてほしい。できるなら、こども園建設までに高山幼稚園の耐震工事をしてほしい。

○市の小中一貫教育についての説明

参加者：生徒が減っていくのに校舎を建て替えてずっとやっていけるのか。

事務局：同じ校舎、施設一体型という方針が出たら、新設し、長く使っていきたい。

参加者：これは決定事項なのか。変更することはないのか。

事務局：市長がタウンミーティングでも言っていたように、教育環境をよくしたいという考えでの提案なので、論議を重ねてよいものにしていきたい。

参加者：メリットは職員が1人増えるということだけか。

事務局：先生が増えることだけではない。教育の中身、生徒指導も含め9年を見通した教育をしていく。どのあたりを強みにするか、誇りにするか、みんなで考え、地域の人がこうなってほしいと願っていることも取り入れていきたい。

参加者：小中一貫校がいやな場合、上中や鹿中へ行くことができるのか。
先生が1人増えると、生徒指導ができるということは、今はできていないのか。

事務局：1人増えるのは教科担当のことで、それに加えて市の予算で小中一貫教育のための加配も考えている。
校区は、個々の事情によってご相談は受けている。

参加者：子どもが減っていくことを前提に考えているが、市街化調整区域を緩和して高山を活性化する方法は考えられないのか。
中学校の先生が小学校で教えられるのか。また、先生の負担が増えると聞いているが、本当に先生は充実するのか。

事務局：新しいことをやっていくので、一時的に先生の負担も増えると思うが、授業の持ち時間数では小学校の先生の負担は少なくなると予測している。一時の負担増についても先生が協力していく中で解消されると考えている。

参加者：小中一貫に魅力を感じない。別々でも同じだと思う。私も、ビジョンが見えない。

事務局：内容は、こちらから「このようにやります。」というのではなく、皆さんの意見を聞きながらやっていく。例で言うと、奈良市の田原小中学校は、英語活動を小学校1年生からやっていて、中学校3年では英検の資格を取っている。京都の学校では、小5から中学生に交じって金管バンドをしており、みんな生き生きと活動している。子どもたちが達成感と自信をもってやっているし、先生方もやりがいを感じ生き生きしている。高山でも例えば伝統産業に関して9年間をかけてやっていくなどの取組もできる。

参加者：いろいろなメリットをお伺いしているが、北小、北中は距離が近いので同じ校舎でなくても連携できるのではないか。今は小学校と幼稚園の連携もないが、この距離だから幼小中の連携はできると思う。それよりも小学校、中学校の節目がなくなる方が不安である。

参加者：耐震化の公表用資料を見ると、高山幼稚園だけが飛びぬけて耐震性が悪いが、なぜ一番あと回しになるのか。

事務局：耐震補強は、小中学校を優先して進めた。H23年度で小中の耐震化が完了した。H24年度からは幼稚園の耐震化を進めている。同じ幼稚園でも園舎によって耐震性の値が違う。他の幼稚園でも園舎によっては高山幼稚園よりも耐震性の低いものもある。一度にはできないので、小中学校同様に計画的に進めている。

事務局：高山幼稚園だけが特別に値が低いということはない。どの幼稚園も早く進めたいが、財政的なことも含めて計画的に進める中で、高山幼稚園は認定こども園にすることとしてこの計画に入っているということであって、できるだけ早く進めたい。

参加者：高山での特色は何か、具体的に何ができるかということを議論して示してほしい。それが皆さんに分からない状況だ。今後懇話会等で十分議論していただくようお願いする。

自治会として、地域のグラウンドとして使えるようお願いしたい。校区の見直し等の話も出ていたが、簡単にいくものではないので、十分議論してほしい。また、その内容を情報提供してほしい。

○実施に向けての要望

参加者：質の高い先生を配置してもらいたいが、小中一貫校へいく先生は、開校の前の事前の研修、勉強はされるのか。

事務局：情報提供をし、先進事例を見る研修も行いたい。学校で計画を立てる際には協力もしていきたい。

参加者：小中一貫校の建設に伴って同時に河川整備や道路整備、下水道整備もしてくれるのか。

事務局：通学路は昨年も点検した。県道は、県郡山土木事務所の管轄なので、市ですぐに答えはできない。通学路の安全対策はできる限り進めたい。

事務局：河川整備や下水道整備については、教育委員会の立場では答えられない。

参加者：学校によって課題は違うが、北中は地域の協力で支えられており平和である。クラブ活動が少ない等のデメリットもあるが子どもを育てるにあたっては、地域全体で進めている。地域に学校を残すためなら小中一貫校も視野に入れ、前向きに考えてもらいたい。先生と地域のコーディネーターも必要だし、先生方も少ないがスクールボランティア等も加配して考えてもらいたい。

事務局：生駒北小、北中は本当に地域の方々に支えられている。今回、小中一貫校の提案をした要因の一つである。市教委は、校舎の新設や教育課程も含めていろいろなことができる環境作りをしていきたい。皆さんの意見を聞きながらよいものにしていきたい。

事務局：【終わりの挨拶】

以上